

法政大学 大学院

人文科学研究科日本文学専攻

募集要項

●募集人員

修士課程 20名程度 博士後期課程 2名程度

●入試の種類

法政大学大学院では、多様な入試方法を用意し、さまざまなバックグラウンドを持つ志願者に広く門戸を開くことに努めています。

◆一般入試

社会人、外国人に特化した入試ではなく、幅広い受験資格により広く門戸を開いた入試方法です。もちろん社会人、外国人の方も受験できます。

修士	筆記試験（専門科目・外国語〈英語・中国語〉）	口述試験
博士	筆記試験（専門科目・英語）	口述試験
入試日程＝修士は秋季・春季2回 博士は春季のみ		

◆社会人入試（修士課程のみ）

社会人などを対象とした入試方法です。

修士	筆記試験（専門科目に関わる小論文）	口述試験
入試日程＝秋季・春季2回		

◆外国人入試（修士課程のみ）

外国の大学等を卒業した外国人を対象にします。なお、日本の大学を卒業した方（見込みも含む）であっても、日本での通算滞在期間が6年以下であれば、受験することができます。

修士	筆記試験（専門科目に関わる小論文・日本語）	口述試験
入試日程＝春季		

- * 入試の評価については、それぞれの入試要項により、ご確認ください。
- * 入試要項と過去問題集をご希望の方は、住所、氏名、電話番号を、志望される研究科：専攻名を明記の上、Eメール、FAX、ハガキにてご請求ください。



- ACCESS ● JR/都営新宿線：市ヶ谷駅より徒歩7分
● 東京メトロ有楽町線・南北線：市ヶ谷駅5番出口徒歩2分
● JR/東京メトロ東西線/都営大江戸線：飯田橋駅より徒歩10分

申込・問い合わせ先

法政大学 大学院事務局 大学院課

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2 法政大学大学院棟1F

TEL.03-5228-0550～2 FAX.03-5228-0555 Email hgs@i.hosei.ac.jp

<http://www.hosei.ac.jp/gs/>

このパンフレットは再生紙を使用しています。

HOSEI

能楽研究者育成プログラム

法政大学大学院 人文科学研究科日本文学専攻

昼夜
開講制

先端の能楽研究を理論的・実践的に学ぶ 新しい大学院教育のプログラム——



能楽研究所閲覧室

能楽研究者育成の新たなプログラム

法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻では、能楽研究者育成をめざす新たな教育プログラムを展開します。

中世に生まれ、いまも生きつづける能楽は、日本文化史の精華として世界的に注目されています。その歴史と現代的展開を追究し、能楽の魅力を世界に、そして未来に伝えていくためには、高度で多様な能力を身につけた研究者の存在が必要です。これまで本専攻では、野上記念法政大学能楽研究所と連携し、多数の研究者育成に実績をあげてきました。今回の教育プログラムでは、これまでの教育機能をさらに高め、能楽研究者育成に特化した質の高い教育を実現します。

プログラムのめざすもの

このプログラムは、21世紀における能楽の研究・普及に携わる専門家の育成をめざすものです。史的・理論的な立場から能楽研究を推し進める研究者はもとより、能楽資料・文化財の調査・保存に携わる人材、現代における能楽の普及に携わる人材、能楽の魅力を広く世界に発信しうる人材(留学生を含む)の育成に努めます。法政大学能楽研究所所蔵の貴重な原典資料を用いて文献調査を実践的に学ぶ「能楽資料研究」や、能界の第一線で活躍中の能楽師・評論家とともに現代における能楽の課題を考察する「現代能楽論」など、新鮮で刺激あふれる科目を新たに開設します。

学位(修士・博士)取得に向けた綿密な指導

本プログラムは修士課程・博士後期課程で展開されます。修士課程は2年以上在籍することを原則とし、「能楽関連科目」を中心に30単位以上を修得し、修士論文を提出して審査に合格することが修了要件となります。博士後期課程は3年以上在籍することを原則とし、3科目以上の授業科目を履修し、博士論文を提出して審査に合格することが修了要件となります。課程修了時にはそれぞれ「修士(文学)」「博士(文学)」の学位が授与されます。

修士・博士論文の執筆にあたっては、複数の教員による指導を受けることができます。また、中間発表会や各種の研究会を実施し、研究テーマ・内容に関する討論を行い、論文の質を高めていきます。

発展的カリキュラムで、幅広い科目履修が可能に

日本文学専攻では古代から近現代までの日本文学、日本語学・言語学のほか、中国文学・沖縄文学・国語教育・ジェンダー論など、多様な科目設定をしています。能楽研究だけでなく、背景となる文学・言語を学ぶことにより、研究者としての視野を広げることが可能です。

さらに日本文学専攻では、本学大学院に設置されている国際日本学インスティテュートの科目を履修することもできます。国際日本学インスティテュートは日本文化を学際的に学び、世界への文化発信のあり方を研究するコースです。例えば、インスティテュート開設の「国際日本学演習1」では、日本における古典音楽の歴史や、海外における能楽研究の動向が学べます。これらの科目を通じて日本の文化と芸能を広く学び、あわせて日本の能楽研究を世界に発信する力を養うことができます。

社会人・留学生にも多様な入試を設定

日本文学専攻では社会人・留学生を受け入れるための多様な入試制度を実施しています。また、昼夜開講制を導入し、仕事を持った社会人の方でも、学びやすい環境が保たれています。海外からの留学生には、日本語・日本文学関係の基礎科目を設置し、学習活動をサポートします。

能楽関連科目一覧

■日本中世文芸演習【4単位】西野 春雄
世阿弥の能楽論書『三道』を中心に講読し、世阿弥の能楽論の展開をあとづけ、世阿弥時代の能の芸術性について考察する。

■能楽作品研究【4単位】山中 玲子
能の作品研究。複数の写本を校合して本文を検討し、詞章の現代語訳を試みると同時に、演出の特色にも気を配りつつ、作品の魅力を探っていく。

■能楽資料研究【2単位】小秋元 段・宮本 圭造・山中 玲子
日本古典籍書誌学の入門から、法政大学能楽研究所所蔵の貴重書を使用した調査実習、原典資料を活用した能楽研究の進め方について実践的に学ぶ。

■現代能楽論【2単位】山中 玲子・土屋恵一郎・観世鏡之丞・観世 喜正
現代芸術として能をどのようにとらえるか、また能楽が直面している現代的課題について、第一線で活躍中の能楽師・評論家とともに考察を進める。

能楽関連科目担当教員

◆西野 春雄 教授
法政大学能楽研究所所長。謡曲・能楽論・能面について研究。復曲能・新作能も手がける。校注書に新日本古典文学大系『謡曲百番』(岩波書店)、編書に『新訂増補 能・狂言事典』(平凡社、共編)。

◆山中 玲子 教授
法政大学能楽研究所所員。能の演出・作品研究を進めるかたわら、外国語に翻訳された謡曲についても研究。著書に『能の演出 その形成と変容』(若草書房)、『能楽雑子方五十年 亀井忠雄聞書』(岩波書店、共著)。

◆スティーヴン・ネルソン 教授
日本音楽史学を専攻。音楽と芸能・文学にまたがる領域を研究するとともに、海外の日本研究者とのネットワーク作りを主導。著書に『日本三代実録音楽記事年表』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、共著)、論文に『平家語りの成り立ち』(『カルチュラル』3)。

◆小秋元 段 助教授
軍記物語・説話・お伽草子などの中世文学と書誌学を専攻。著書に『太平記・柳松論の研究』(汲古書院)、編書に日本文学研究論文集成『平家物語・太平記』(若草書房、共編)。

■日本中世文芸原典研究【4単位】小秋元 段
能楽の典拠となった軍記物語の研究。原本調査を重視し、書誌学的・文献学的手法により、作品の解釈を進める。

■国際日本学演習1【4単位】スティーヴン・ネルソン(国際日本学インスティテュート開設)
日本の古典音楽・古典芸能を対象に、音楽学の歴史と展開を研究するとともに、音楽に関わる文献を読む能力を高めていく。

■国際日本学演習1【4単位】山中 玲子(国際日本学インスティテュート開設)
能楽に関する英語文献の講読。外国において能がどう理解され説明されているかを知り、日本からどのような情報を発信していくべきか考える。

◆土屋恵一郎 兼任講師
明治大学教授(法哲学)。能楽評論家。1980～2003の24年間、能楽研究・上演団体「橋の会」を運営。現在は「能楽観世座」「能楽現在形」をプロデュース。著書に『能・現在の芸術のために』(岩波現代文庫、芸術選奨文部大臣新人賞)。

◆観世鏡之丞 兼任講師
シテ方観世流。八世観世鏡之丞静雪の長男。本名晩夫。観世寿夫および父に師事。鏡之丞家当主。東京・関西を中心に広く活動し、海外公演も多い。社団法人鏡仙会理事長。重要無形文化財総合指定保持者。

◆観世 喜正 兼任講師
シテ方観世流。三世観世喜之の長男。父に師事。社団法人観世九草会理事。海外公演も含め数多くの能を演ずるほか、普及活動にも尽力。謡曲CDや公演のDVDなど教材のソフト化も進める。著書に『演目別に見る能装束』(淡交社)。

◆宮本 圭造 兼任講師
大阪学院大学助教授。法政大学能楽研究所兼任所員。文献調査を中心に中世・近世の能楽史を研究。著書に『上方能楽史の研究』(和泉書院、日本古典文学会賞)。論文に『狂言師森川杜園伝』(『大阪学院大学国際学論集』31)。

その他の開設科目

●日本文学専攻(各科目4単位)
日本文学(鈴木日出男)
日本文芸批評史(堀本 剛)
日本古代文芸原典研究(坂本 勝)
日本古代文芸演習(天野紀代子)
日本近世文芸原典研究(日暮 聖)
日本近世文芸演習(若尾政希)
日本近代文芸原典研究(宮内 豊)
日本近代文芸演習I(堀江拓充)
日本近代文芸演習II(勝又 浩)
日本語学原典研究(間宮厚司)
日本語学演習(佐川誠義)
沖縄文芸史(竹内重雄)
中国文学(黒田真美子)
日本文芸特講I<文芸方法論研究>(米山孝子)
日本文芸特講II<アートマネジメント研究>(中沢けい)

日本語学特講(石川 潔)
日本語学特講(久保田篤)
国語と文芸教育法(田中 実)
言葉と文芸作品(司 修)
女性文学(長谷川啓)
文芸と視覚芸術(上野昂志)
学際的文学論(J・クライナー)
文学と風土(川村 淡)
歴史と文学論(安藤信廣)

●国際日本学インスティテュート
(I・IIの表記のある科目は各2単位、他は4単位)

国際日本学演習1(天野紀代子・スティーヴン・ネルソン・山中玲子)
国際日本学演習2(勝又 浩)
アジアの中の日本I-II(高 増志)
伝統文化と民衆世界I-II(横山泰子)
風土が創る文化I-II(漆原和子)
もう一つの日本文化I(吉成直樹)
日本学事始め(飯田泰三)
世界の日本論と日本学I(K・W・ラドケ)

世界の日本論と日本学II-III(J・クライナー)
江戸とアジア(田中優子)
日中文化論の現在(王 敏)
仏教思想と仏教美術I-II(高橋秀榮)
日本の道・日本の旅I-II(山本光正)
越境時代の日本文化I-II(湯本豪一)
モノとワザの文化史I(原田紀子)
モノとワザの文化史II(高村雅彦)ほか

日本文学専攻教員

佐川 誠義 教授	言語学	坂本 勝 教授	古代(前期)文学
堀江 拓充 教授	近代・現代文学	間宮 厚司 教授	日本語学
勝又 浩 教授	近代・現代文学	黒田真美子 教授	中国古典文学
天野紀代子 教授	古代(後期)文学	中沢 けい 教授	文芸創作
日暮 聖 教授	近世文学		

このほか他専攻の科目も履修可能です(科目名・担当教員名は2006年度のもの)

Hosei University, Graduate School of Humanities, Major in Japanese Literature
Program for the Training of Researchers of Noh Theater

The Japanese literature major of the Graduate School of Humanities of Hosei University now offers a program for the intensive training of specialists in the field of the Japanese classical theatrical form known as *noh*. In collaboration with the Nogami Memorial Noh Theater Research Institute of Hosei University, one of the best research institutes in Japan dealing with this classical theatrical genre, our school has produced a number of excellent researchers in the past. With a view to building on this tradition, the school has introduced a new intensive course for the training of researchers, entitled “Nôgaku Kenkyûsha Ikusei Puroguramu.”

Its major aim is the training of researchers and other specialists in the field of *noh* theater. At masters' level, a total of seven courses (24 units) are now devoted to *noh* theater and related subjects. Students who take these courses will be trained in research on the essence of the Japanese performing arts from a variety of perspectives. In addition to core topics such as *noh* theory and the literary study of its libretti, these courses offer students the opportunity to undertake bibliographical and other source material research on the wide variety of historical sources held by the Noh Theater Research Institute, as well as to study *noh* in its contemporary context with performers and critics who play leading roles in today's *noh* world. Supervision of work towards masters' and doctoral theses is undertaken by a strong and varied academic staff, and candidates will have the opportunity to make full use of the holdings of the Noh Theater Research Institute.

The major in Japanese literature of the Graduate School of Humanities, where the new program is based, also offers graduate courses in a wide variety of related fields, embracing Japanese literature and linguistics, Chinese literature, Okinawan literature, and gender studies. Study in these fields will provide majors in *noh* theater studies with a solid background for the contextualization and extension of their research. Majors in the new course are also allowed to take for credit courses offered by the International Japan-Studies Institute of the Graduate School of Humanities. This is a recently founded institute for the study and dissemination of research on Japan and its culture. Courses offered there will help prepare majors in *noh* theater studies for a future in which they can participate in the growing global interest in Japan's *noh* theater.

A special entrance examination system has been prepared for foreign students, in recognition of the fact that they often do not possess the literary skills of native Japanese applicants. For details, please see the guidelines for applicants. In addition, a course is offered for foreign students at masters' level on Japanese language and literature, in which they will have a chance to study the basics of the classical language necessary for research at graduate level.